



煌めけ真壁っ子

学校便り 第 3 号
令和 5 年 5 月 11 日発行
学校長 津嘉山 博好

5月の1年生の様子紹介

1年生が入学してから、早一ヶ月が立ちました。新しい友達とも仲良くなり、朝から元気に活動しています。

5月9日には、糸満警察署の職員3人と、交通安全協会、防犯協会の方々をお招きして、交通安全教室を実施しました。まずは交通ルールに関するアニメ映像を見て、次に模擬信号機と横断歩道シートを使い、アニメで確認したことを実際にやってみました。どの子も学んだことをしっかりとやることができました。話をしっかり聞いて行動できる1年生に参観者も感心しきりでした。

最後に「いかのおすし」の確認をしました。どの子も内容をよく覚えていて、警察官の質問にしっかり答えることができていました。こども110番の家のこともよく知っていて、不審者に声を掛けられたらここに逃げ込めばよいことや、こども110番の家の他にも知っている人の家があればそこに逃げ込むこと等を確認しました。子供たちは、糸満警察署の職員から「家に帰って今日学んだことをお家の人と確認してね」と言われていましたので、お子さんと今一度ご確認をお願いします。

5月の行事予定

- 12日(金) 職員研修(心肺蘇生)
下校時刻に変更あり
 - 15日(月) クラブ①発足式
(4~6年)
 - 17日(水) 視力・聴力検査
(全学年)
委員会活動(5・6年)
 - 19日(金) 体力テスト(全学年)
 - 22日(月) クラブ②(4~6年)
 - 23日(火) 耳鼻科検診(全学年)
 - 24日(水) 内科検診(全学年)
 - 29日(月) クラブ③(4~6年)
 - 30日(火) プール開き(6年)
 - 31日(水) 職員研修(授業研究)
下校時刻に変更あり
- ※下校時刻の変更は、別途
文書にてお知らせします



交通安全教室の様子



算数(数の学習)



あさがおのつるがのびはじめました



「自己肯定感」を育む

最近、様々な調べ物をしている中で、ふと目に止まった記事がありました。どんな困難にも負けない自立した子に育てるための書籍をもとにした筆者へのインタビュー記事なのですが、保護者の皆様と共有したい内容でしたので要約して紹介いたします。

自己肯定感があれば、どんな困難にも負けない自立した子に変わる！

品川女子学院校長 漆 紫穂子(うるし しほこ)

「子どもが伸びるために一番大切なものは何か」

「どんな困難なことがあっても、一生幸せでいるには、在学中に何が必要なのだろう」

財団法人「日本青少年研究所」が2011年に行った日米中韓の高校生調査によると、日本は「自分は大げな人間と思うことがある」という質問に「よく・まあまあ」当てはまると答えた割合が83.7%で、「自分は価値のある人間だ」という質問に「よく・まあまあ」当てはまると答えた割合は39.7%だったようです。他国と比べて、日本は自己肯定感の低さが際立っており、上記2つの問いが生まれたそうです。

自己肯定感とは、自分のいいところも、ダメなところもひっくるめて、自分を認め、肯定する気持ちを言います。品川女子学院では、自己肯定感が高い子の周りには自然と人が集まり「自分が好き、人が好き、人に好かれる」という好循環が見られるそうです。また、自己肯定感の高い子は、卒業後に社会で待ち受けている荒波も、自分の力で乗り越えられることが確かめられたそうです。

では、自己肯定感はどうすれば育まれるのでしょうか。ひとつは「愛されているという実感を持つ」こと。「どんなあなたも愛している」という無条件の受容が自己肯定感の源になります。しかし、愛するがあまりつい、子供が成長するにつれて他の子と比べたり、愛情に条件をつけてしまったりということが起こります。それでは大切な自己肯定感を損ねてしまいます。

もうひとつは「やればできるという自信を持つ」こと。できないと思っていたことができたという達成感が「私は、やればできる子なんだ！」という強い自信と誇りを生み、自己肯定感を育みます。

では、子供たちが達成感を得られるようにするために、私たちにできることは何でしょうか。過保護・過干渉から卒業し、子供が乗り越えるべきハードルを取り除かないこと。むしろ、たくさんの失敗と揉め事をプレゼントしてあげることです。そこから、小さなことでも子供の成功体験を認めてほめること。それが未来のために達成感や自信を貯金してあげることになります。もし、子供の自信が揺らぐようなことが起こったなら、心の奥底に眠る満たされた記憶＝貯金を呼び起こしてあげてください。それを繰り返すことで、子供たちの貯金は増えていきます。そうすることで、子供たちの自己肯定感の芽が育つのです。一生ものの財産です。

いかがでしょうか。保護者の皆さんも私たち教職員も、子供たちに育みたいと願う自己肯定感。ともに手を携えて育んでいきませんか。

子供に対する接し方を変えることで、たとえ思春期を迎えた後であっても見違えるように変わっていく子供たちがたくさんいるそうです。「もう遅い」ということは決してないのです。自己肯定感を育むことはやり直しがきくようです。